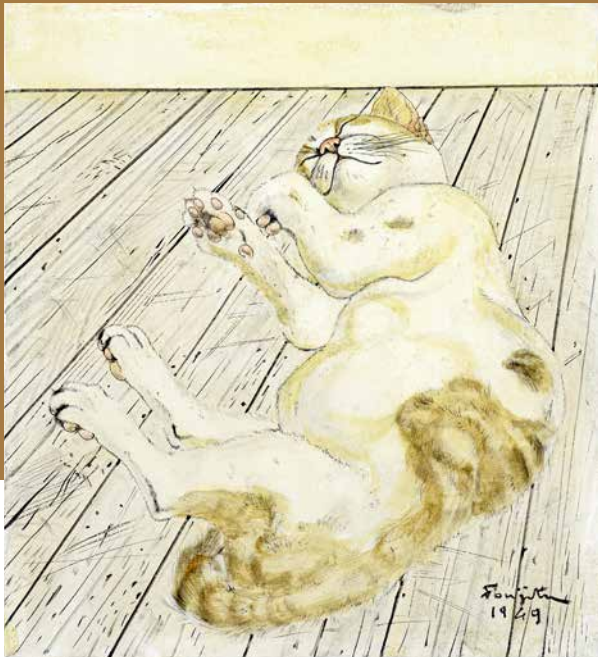




© Fondation Foujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3933

1949 L: ニューヨークからパリに渡る際にも携えられた特別な作品。

1950

ニューヨークからパリに到着。以後、1968年に亡くなるまで、フランスで猫の絵をえがき続ける。特に晩年は、猫を抱いた少女像を数多く手がけた。

1950's

M: 数多くの「猫を抱く少女」の中でも、藤田が最後まで手放さなかったお気に入りの一作。



© Fondation Foujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3933

1968
チューリッヒで死去。

1950

1952



© The MIMOCA Foundation

1952
猪熊弦一郎、《猫によせる歌》を新制作協会展に出品。この頃、猪熊は猫のテーマに集中して取り組む。

N: 猫の絵に新しい展開を生み出した猪熊の最大級の猫の絵。

1975



O: 戦後、多数の猫の版画をうみだした稲垣知雄。

1986



© The MIMOCA Foundation

P: 猪熊が純粋抽象画へと進んだ後にもスケッチブックに現れた楽しい猫たち。

フジタからはじまる 猫の絵画史

藤田嗣治と洋画家たちの猫



藤田嗣治《猫の教室》1949年 軽井沢安東美術館

© Fondation Foujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3933

猫の学校、14ひき学級。

2025年 9月20日(土) — 12月7日(日)

- 休館日: 月曜日 (10月13日、11月3日、11月24日は開館)、10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)
- 開館時間: 10時から17時 (入場は16時30分まで)
- 観覧料: 一般1000円(800円)、高校生・大学生500円(400円)、小学生・中学生250円(200円)
一部の作品の展示替えを行います。詳しくはホームページをご覧ください。 他会場への巡回はありません。

※10月11日(土)～13日(月)は市民文化の日無料観覧日のためどなたも無料。当日は混雑が予想されます。混雑時には入場制限を行いますので、あらかじめご了承ください。*()内は前売り料金、20名以上の団体割引料金。*前売り券は、9月19日まで府中市美術館(9/8～9/19は休館)、セブン・イレブン、ローソン、ミニストップなどで販売。*未就学児無料。障害者手帳(マイリD)等をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。*コレクション展もご覧いただけます。*府中市内の小中学生は「府中っ子学びのパスポート」で無料。●主催: 府中市美術館 協力: 青木屋

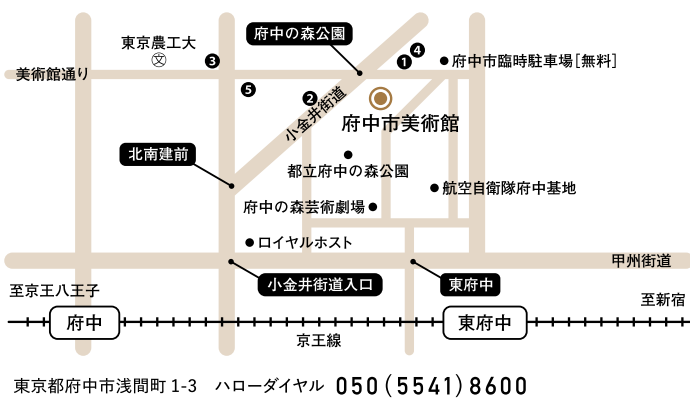
府中市美術館
Fuchu Art Museum

無料

展覧会講座「フジタからはじまる猫の絵画史 藤田嗣治と洋画家たちの猫」 音ゆみ子 (府中市美術館学芸員)
2025年11月8日(土) 14時～(開場13時30分) 府中市生涯学習センター講堂 (府中市美術館より徒歩5分) 予約不要

〈交通案内〉

- 東府中駅から徒歩／バス
 - ・ 徒歩 17分
 - ・ ちゅうバス府中駅行き「府中市美術館」①下車すぐ(毎時5分、35分に運行、100円)
- 府中駅からバス
 - ・ ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」①下車すぐ(毎時00分、30分に運行、100円)
 - ・ 武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」②下車すぐ
 - ・ 武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
 - ・ 国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
- 線武蔵小金井駅南口からバス
 - ・ 府中駅行き(一本木経由)「一本木」④下車すぐ
 - ・ 府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
- 国分寺駅南口からバス
 - ・ 府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
- お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料、54台収容)をご利用ください。



府中市美術館 Fuchu Art Museum



© Fondation Fujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3933

その猫に歴史あり。

- A: 藤田嗣治《五人の裸婦》
1923年 東京国立近代美術館
B: 藤田嗣治《クリソテミス》
（『猫の本』より）
1930年 藤沢市（招き猫亭コレクション）
C: 藤田嗣治《猫》
1940年 東京国立近代美術館



© Fondation Fujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3933



© Fondation Fujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3933

1923 A: 藤田の出世作。ベッドの上の猫は官能性を象徴している。

1886 東京に軍医の子として生まれる。

1905 東京美術学校西洋画科に入学。

1913 パリに到着。

1917 この頃、最初の猫の絵をえがく。

1921 裸婦の横に猫をえがき始める。

1923 《五人の裸婦》をサロン・ドートンヌ展に出品。同展で最高額の値をつける。

1929 猫ばかりを集めた版画集『猫十態』がパリで出版される。
1930 『猫の本』がニューヨークで出版される。

1940 「争闘」のタイトルで《猫》を二科展に特別出品。

1949 渡米。ニューヨークで大規模な個展を開催し、『猫の教室』を出品。

2度目の猫の豊作年。戦争画の責任をささやかれた日本を離れ、アメリカで制作に集中した。

藤田嗣治

猫の絵画史

浮世絵、日本画、現代アート……日本には魅力的な猫の絵がたくさんあります。そんな中で、独特の存在感を放っているのが、近代洋画の猫です。ツンとすましたおしゃれでモダンな猫、あえて朴訥に表した猫など、洋画家たちは多彩な猫の絵をえがいてきました。

しかし実は、洋画が生まれた当初、猫の絵はほとんどえがかれませんでした。また、洋画家たちが手本とした西洋の絵画にも、猫の絵は多くありません。絵の主役は人物という考え方が古くからある西洋には、そもそも動物の絵が少ないのです。

そんな猫というモチーフを、洋画の魅力的なテーマへと押し上げたのが藤田嗣治でした。1920年代のパリで、独自の下地に日本画の筆でえがいた「乳白色の裸婦」で脚光を浴びた時、裸婦の側にえがいたのが始まりです。さらに、まるで自分のサインのように自画像にえがき込んだりと、多くの個性が競い合うパリ画壇で、猫は藤田自身を印象付けるために欠かせないモチーフとなっていきました。

本展覧会では、パリの日本人画家「フジタ」がえがいた「裸婦の横の猫」を出発点に、日本の洋画家たちの猫の絵を紹介しつゝ、藤田から直接の影響を受けた画家もいれば、そうでない画家もいます。しかし、どちらにも共通するのは、西洋とは違う日本の猫の絵の歴史も背負っていたということです。だからこそ、日本と西洋の伝統の間で悩んだり、猫というモチーフから新たな道を見出そうとしたのです。前史となる西洋絵画や日本画も含め、26人の作家、83点の作品で洋画の猫の歴史をたどります。

1865 マネ、《オランピア》（オルセー美術館蔵）をサロン展に出品。

1910 菱田春草、《黒き猫》（永青文庫蔵）を文展に出品。

1909 朝倉文夫、《吊された猫》を文展に出品。

1867



D: 西洋の猫の絵画史を語る上では欠かせない《オランピア》。藤田の裸婦の横の猫にも影響を与えた。

1929年はフジタの猫、最初の豊作年。版画集の制作のためにポーズや表情のバリエーションが増える。

- D: エドゥアール・マネ《オランピア》（『30のオリジナル版画』より）1867年 N.H.コレクション
E: テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン《ヴァンジャンヌの殺菌牛乳》1894年 N.H.コレクション
F: ビエール・ボナール《テーブルの下黒い猫》1897年頃 N.H.コレクション
G: 朝倉文夫《吊された猫》1909年 N.H.コレクション
H: 菱田春草《黒猫》1910年 播磨屋本店
I: 中原實《猫の子》1929年 東京都現代美術館
J: 長谷川瀧二郎《猫と毛糸》1930年 個人蔵
K: 木村荘八《猫恋人（ねこらばさん）》藤沢市（招き猫亭コレクション）

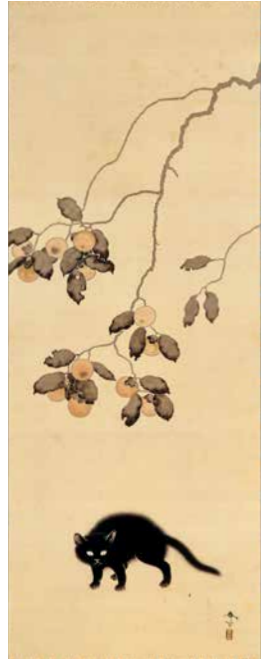
1909

番外編



G: 日本における猫の彫刻のさきがけとなった《吊された猫》。

1910



H: 宋時代の中国絵画を研究し、日本画の猫ブームを作った菱田春草。

1929



I: 前衛画家のえがく、とびきりかわいい子猫。

1930



J: 長谷川瀧二郎の初期の貴重な子猫。

1950～猫を主題にした油彩画や版画が増え始める。



K: 「わたしのラブさん」で始まる昭和5年（1930）の流行歌から生まれた「ねこらばさん」。